

## 坂本宿から碓氷峠へ

坂本宿を過ぎると、いよいよ街道最大の難所の一つと言われる「碓氷峠」へ入り、信州軽井沢宿へ向けて山路の旧道が続いていきます。



## 坂本宿



江戸から第十七番目の宿場。参勤交代の実施に伴い、碓氷峠の登り口に宿場が必要となったことから、計画的に作られた。道幅が広く、整然と町並みが整備されている。碓氷関所を控え、旅籠が多いのが特徴。ここを過ぎると、いよいよ街道最大の難所の一つである碓氷峠越えとなる。

町並の長さ	6町19間
人口	732人
総家数	162軒
本陣	2軒
脇本陣	2軒
旅籠数	40軒

## 松井田宿



江戸から第十六番目の宿場。信州各藩から集まる年貢米の中継地として賑わい、「米宿」とも呼ばれていたと言う。西に碓氷関所を控えており、馬子唄に「雨が降りゃこそ松井田泊まり降らじゃこしまよ坂本へ」と唄われたように、日のあるうちに面倒な関所を越しておきたいと、松井田を通過してしまう大名や旅人が多かった。

町並の長さ	9町8間
人口	1,009人
総家数	252軒
本陣	2軒
脇本陣	2軒
旅籠数	14軒

## 安中宿



江戸から第十五番目の宿場。安中城の城下町。日本マラソン発祥の地と言われ、毎年、碓氷峠の熊野権現まで走る「侍マラソン」が行われている。これは安政年間に藩士の鍛錬のために始めた「安政の遠足」が起源。同志社の設立者で、キリスト教布教に尽力した新島襄は安中藩士の子。

町並の長さ	3町44間
人口	348人
総家数	64軒
本陣	1軒
脇本陣	2軒
旅籠数	17軒

## 板鼻宿



江戸から第十四番目の宿場。旅籠が54軒と、街道中でみてもかなり多かった。「碓氷川の徒歩渡し」があったところで、増水すると川止めになり、多くの旅人が逗留した。幕末、皇女和宮が将軍家茂に降嫁の折に宿泊された本陣書院が、今も残っている。

町並の長さ	10町30間
人口	1,422人
総家数	312軒
本陣	1軒
脇本陣	1軒
旅籠数	54軒